



福島チイ子さんに第2回ブランチ賞



福島チイ子さんは東京ブランチ創立以来のメンバーで、ブランチ創立時にはたいへん活躍され、トレジャラならびに運営委員として草創期の活動に大きな足跡を残しています。

1989年、日本で初めて指導資格予備試験が行なわれた際、トレーニングと実技試験の実務会計を献身的に務められました。

温厚・控えめなお人柄のため、ブランチ行事では衆目を集める前面に立たれたことはありませんが、ブランチ活動においては地道な舞台裏活動が重要であり、福島チイ子さんはこの分野で多大な貢献をされました。福島チイ子さんの献身をたたえ、ブランチ賞を贈ります■

2006年度ブランチ行事予定

- | | |
|----------|---|
| 3月31日まで | 会員登録更新 |
| 4月29日 | World Day of Dance (田町駅前
港区スポーツセンター) |
| 2月-5月 | 指導者資格試験 (別項参照) |
| 6月 | 年次総会 |
| 9月 | RSCDS 新ダンス講習会 |
| 2月16-17日 | ティーチャー研修会 (同下) |
| 2月17-18日 | 合宿 (石川島研修センター) ■ |

東京ブランチ・クラス

(会場はそのつど変わります。毎月のクラス案内をご参照、または担当にお問合わせください)

ビギナーズ・クラス

3月13日(月)・27日(月) 1.30-4.30

以降毎月第2・第4月曜日

千代田区総合体育館5F

講師 トム鳥山・五十嵐成子

¥600

3カ月前納の場合¥3,500

担当 兼松千奈美 03-3752-6374

ステップ・ダンス・クラス

3月11日(土) 1.15-2.05

講師 小山かおる

笹塚区民館2F

1・2・3月の講習ダンス Blue Bonnets

3回連続で ¥1,000

担当 増田静子 043-232-2257

インターミディエイト土曜クラス

3月11日(土) 2.15-4.30

講師 大井富佐子

笹塚区民館2F

¥500

担当 増田静子 043-232-2257

インターミディエイト月曜クラス

3月6日(月) 1.30-4.00

講師 篠塚昌子

千代田区総合体育館5F

¥600

担当 境 雅子 047-368-3873

アドバンスド・クラス

3月4日(土) 6.20-8.45

講師 小山かおる

童夢館(秋葉原)

¥600

担当 大井富佐子 03-3330-4676■

New Year Dance 2006

1月9日(月・祝)、北区赤羽会館に120名が参加し、ブランチ・レディスステップ・クラスの選抜メンバーと川崎千佳さんによるディスプレイを間にはさんでNew Year Dance 2006を楽しみました。



MCは鈴木百代・小山かおる、音楽は小海弘子(ピアノ)・菊池孝(フィドル)・村山由美子(フィドル)のアンサンブル、会場デコレーションは大井富佐子のみなさんがつとめました。

全ダンスにわたってダンサーは流麗な音楽にひたって踊り、ミュージシャンの水準の高さをあらためて感じました■

3月に2006年度会員登録を

例年4月に行なっていた会員登録、2006年度は事務処理量の平準化ならびに4月から郵便振替料金が値上げされるため、3月に行なうことにしました。3月はじめに登録申込書および郵便振替用紙をお送りしますので、3月31日(金)までに申込み・会費払い込みをお願いします■

郵便振替料金値上げ

- 4月3日(月)から -

民営化後の値上げは非難をあびる、いまのうちに判断した日本郵政公社、4月3日(月)から郵便振替手数料をつぎのように値上げします。

振替金額	窓 口		ATM利用
	現行	4月から	(変更なし)
1万円まで	¥70	¥100	¥60
10万円まで	¥120	¥150	¥110
100万円まで	¥220	¥250	¥210

機械は苦手という会員も多いようですが、郵便貯金の扱いと同じ機械です。土日も動いているATMのご利用をおすすめします■

Exams Tokyo 2006 概略日程

項目	人員	内 容	予 定 日	場 所	チューター
Unit-1 (筆記)	9名	試験 答案英訳	2/18 2/26	石川島研修センター 千代田区総合体育館	なし
(Unit-1 合格者が6名未満の場合、Unit-2 および Unit-3 は行ないません)					
Unit-2 (ダンシング)		トレーニング 試験	3/25-26, 4/15-16, 4/22-23 4/29	石川島研修センター 国立女性教育会館(武蔵嵐山)	小山芳樹
Unit-3 (ティーチング)		トレーニング 試験	4/29-5/2 5/3	国立女性教育会館 中野サンプラザ	五十嵐成子
Full Certificate					
	16名	予備トレーニング 筆記試験 答案英訳 トレーニング ダンシング試験 ティーチング試験	3/18-19 4/1 4/2 4/29-5/2 5/3-4 5/5 5/5-7	石川島研修センター 中野ゼロホール西館 中野ゼロホール西館 堀幸(河口湖) フォーラム246 フォーラム246(愛甲石田) 中野サンプラザ	小山芳樹 なし Bruce Frazer & Jean Martin

Exams Tokyo 2006 はじまる

1月29日の試験概要説明会兼受験生顔合わせ兼踊り合わせ、2月18日のUnit-1筆記試験を皮切りに、3ブランチ合同の指導者資格試験がスタートしました。試験実行委員会はトレーニングと試験の会場確保に苦労しましたが、本当の苦労はこれから始まります。

5月7日の試験終了まで筆記試験答案翻訳、通訳、実技試験スチューデント(ボランティア)などみなさんの大きなご協力をいただきたく、お願いいたします。ことに実技試験スチューデントは延べ140名以上のダンサーを必要とします。ブランチを通じて会員各位にボランティアをお願いすることになります、そのときにはこころよくお引き受けいただけるようお願いしております。

試験実行委員会(JEC-2006)メンバー

委員長	小山芳樹	(東海)
セクレタリ	鈴木百代	(埼玉)
トレジャラ	境 雅子	(東京)
委員	梶野義枝	(東海)
同	佐藤雅紀	(埼玉)
同	鳥山豊喜	(東京) ■

東京支部運営委員改選

現運営委員の任期は2005年度まで、次期年次総会において2006年度運営委員を選挙します。

立候補(推薦を含む。以下同じ)されるかたはセクレタリ中田多鶴子までお申し越してください。

立候補締切り 5月10日

推薦の場合は必ず被推薦者の同意を得てください ■

ご不要の年賀はがきを支部に

お宅にご不要となった年賀はがきがあれば、どうぞセクレタリ中田多鶴子にお送りください。

昨年は多くの年賀はがきをいただき、ブランチの通信費支出低減に活用することができてたいへんありがたく重宝いたしました。

1枚、2枚でも結構ですので、ご協力をお願いいたします ■

運営委員会報告

11月3日

- (1) New Year Dance 2006 委員の役割分担、予算などを決定。
- (2) 2月合宿 予算・会費・募集方法とその時期を決める。ソシャル・ダンシングのプログラムは

次回委員会で決める。

- (3) Exams 2006 試験実行委員会の進捗状況を担当者から聞く。
- (4) ビギナーズ・クラスの会費徴収方法その他を討議。2月から会費前納の仕組みとし、¥3,500/3ヵ月、1回のみは¥800。
- (5) 「在英投票委任者に、本部年次総会の専門委員会選挙における被投票者名を連絡済」の報告。
- (6) 第2回ブランチ賞受賞者を決定。
- (7) 4月に行なった World Day of Dance の費用は共催の都FD連との折半だが、都FD連から負担経費の報告がない。早期連絡を文書で同連盟に申し入れる。
- (8) ゼネラル・ダンシング・クラスをなんとか開催したいとの意向表明あり。2006年カレンダーの第5月曜日、というアイデアあり。

12月5日

- (1) Exams 2006 11月末に締切ったブランチ受験申込者はUnit-1が4名、Full Certificateが8名。試験実行委員会の進捗状況を担当者から聞く。
- (2) New Year Dance 2006 時間割・会場とマイクのレイアウトなどを決定。
- (3) 2月合宿 ソシャル・ダンシングのプログラム・MCその他を決定。
- (4) 2007年の合宿 2月第3週とするが、場所については石川島研修センター以外によいところがないか次回委員会で話し合う。
- (5) World Day of Dance 2006 は4月29日、港区スポーツセンター(田町駅前)で都FD連と共催する。

1月7日

- (1) New Year Dance 2006 最終確認を行なう。
- (2) 2月合宿 Weekend は97名、スキル・コースは20名の申込み。
- (3) 2007年の合宿 資料を収集し、各種検討したが2007年は石川島研修センターを申込み。
- (4) Exams 2006 3ブランチ合計の受験申込み数はUnit-1が9名、Full Certificateが16名。
- (5) 2006年度の会費額 円安ポンド高にあるが、
本部会費 ¥2,500
ブランチ会費 ¥2,000
はがき代 ¥300 とする。
- (6) World Day of Dance 2006 都FD連との連絡窓口は大井富佐子。

2月4日

- (1) New Year Dance 2006 の批評 119人参加。音楽スムーズ、プログラム好評、MCもよかった。
- (2) 2月合宿 Weekend は101名、スキル・コースは30名の申込み。申込後の参加辞退者への返金額を決めた。
- (3) Exams 2006 試験実行委員会の進捗状況を担当者から聞く。
- (4) 5月以降のブランチ・クラス講師 会員全ティチャーにアンケート回答を求め、10月までの講師を決めてゆく ■

RSCDS 東京支部

チェアマン 五十嵐成子

T/F 048-445-1527

セクレタリ 中田多鶴子 T/F 0297-64-9486

〒301-0855 龍ヶ崎市藤ヶ丘 5-7-5

Email: wbnsd292@ybb.ne.jp

トレジャラ 松村 茂 T/F 047-371-9054

委員会メンバー 大井富佐子 03-3330-4676

兼松千奈美 03-3752-6374

境 雅子 047-368-3873

トム鳥山 044-988-7773

増田静子 043-232-2257

ホームページ www.ne.jp/asahi/tokyo/branch/

同担当 吉澤敦子 T/F 0298-41-0767 ■

RSCDS 本部年次総会報告

(クレメント篤子)

11月4日に Edinburgh Airport につき、そのまま Perth へ行き、翌日の Meeting に参加しました。ブランチフォーラムや 'The Floor is Yours' では、いつもの Discussion で特筆するほどの意見はありませんでした。

AGM は、Lord Mansfield が欠席されたため、Stewart Adam が議長をつとめ、最初に Miss Gibson が10月22日に他界されたことが報告されました。

The Honourable Peregrine Moncreiffe (Vice President) が、女王陛下からのメッセージを讀上げ、ソサエティのスクロールを贈呈されました。トロントのジョン・クリスティとスタン・ハミルトン、ニュージーランドのメアリー・ロニー、ボストンのマリオン・テイラーは、地元での授賞ということで、授賞理由が讀上げられました。日本の皆さまにもおなじみのブルース・フレイザーとジョン・マクレーン、そしてアーガイル地方のジェシー・ハーパーの3人が当日受賞しました。

Motion の「Teaching Certificate Part 1 の年齢を18歳から16歳に引下げ、Part 2 の最少年齢を廃止する」案は、賛成87、反対107、保留8で否決されました。

専門委員の選挙結果は以下のとおりです。

Education & Training Committee – Janet Johnston,
David Queen, Diane Rooney, Bruce Frazer

General Purpose & Finance Committee – George
Flett と Ross Robertson Roderick (任期3年)

Roderick McLechlan (任期2年)

Convenor of GP & F Committee – Lawrence Boyd

金曜夜の Ball Programme は Recap なし。日本の3ブランチが選曲したということで、話題になっていました。みんなが楽しめるいいプログラムだった・・・というのが一般の評価でした。ただ、なぜ最後から3曲目に 48 bars の Jig、「Waverley」を

入れたのか？ みんなが疲れてきたときに 48 bars Jig というのはネエ……という声がありました。

(当夜のプログラム)

Happy Meeting

Dancing in the Street

Miss Florence Adams

Machine without Horses

Irish River

Anna Holden's S'pey

Follow Me Home

12 Coates Crescent

Duke of Perth ↗

Mrs Stewart's Jig

College Hornpipe

Gentleman

Pelorus Jack

Deil Amang the Tailors

Robertson Rant

Waverley

Miss Gibson's S'pey

Reel of the Royal Scots

私たちが日本に行く直前に、Miss Gibson を病院に見舞いました。その際日本の皆さまによるしくとの伝言でした。予想しなかったわけではありませんが、クレメントは葬儀の際に Miss Gibson's Strathpey をバグパイプで演奏してほしいと頼まれていただけに、葬儀に参列できず残念でした。10月29日ちょうどスターリングで葬儀が行なわれていると同時刻に十和田で Miss Gibson's Strathpey をみんなで踊り、追悼できたことがせめてもでした ■

しばらくぶりのスコットランド

(ホーン喜美子、カナダ・オンタリオ)

去年の初秋ヨーロッパ旅行の帰路、4、5年振りにスコットランドに里帰り訪問した際に感じたことなど： 9月も半ばを過ぎると、あの地は灰色の雰囲気をかもし出し、長い短日の兆候が見られ雨も頻繁（これは1年中？）。夏のSCD活動休暇は、北米やヨーロッパ同様ずいぶん長く、ダンス正式シーズン開始が9月第3週頃。歌や絶景で知られる Loch Lomond のある地、Helensbough Branch のシーズン最初のクラス例会に参加し、偶然、東京ブランチと日本のSCD関係者に親しい北アイルランドの Elma & Cecil McCausland と一緒でした。ダンス後、チェアマン宅にわれわれが宿泊していたので、立ち寄ってくださり、夜中まで日本の話題など夫妻は愛知万博訪問の経験を楽しく語っておられました。スターリング市内でも Clackmannan Branch の月曜日クラスに参加し、ここでもカナダのダンス仲間の1人が偶然里帰りしていて、抱き合って喜び合い、SCD 社会の縁をありがたく思いました。ここでは、40年前のクラスかと錯覚を起しそうな雰囲気、クラスの音楽がピアノ、でも奏者はたいへん高齢で、ティーチャーのレスリーいわく、「まもなく CD にかわるでしょう」。

北米、とくにトロント近辺のSCD内容と異なると感じたのは： 「ダンサー間の思いやり、心がけを表現するしぐさ」が見受けられないこと。

日本も含め長年多様民族を含めない社会では、とくにその必要がなく、いわゆるお互いに表現なしで理解し合っているという常識が存在しているからでしょう。現在では、SCDは国際的で、移民者が40%といわれるトロントなどのSCDグループも、20年前は80%がスコットランドか英国系だったのが他の多様背景者のしめる割合が増え、この面での指導が初心者レベルからなされ、ダンサーの身についているようなので、もし欠けている所だと、「しぐさ」のなさを意識してしまうのでしょうか。

これに関して、参考までに：ここ（トロント）では、1つのダンスが終わったとき、即座にセットを離れず、パートナーはもちろん、セットのメンバーにもThank youを述べるのが常識、ときにはThank you, setで略す場合もあるようです。

スコットランドのSCD友人との会話で感じたのは、どこでもチャリティ精神を取り入れていること。キャッスルなどを会場にする大規模なチャリティ・ボールからミニ・チャリティと呼ぶ通常の会場を利用するものまで各種で、たとえばHelensbough Branchの2006年のミニ・チャリティの目標は「がんの研究基金募集」、スターリングの月曜日クラスは、半年の参加費の余分収益の500ポンドを小児病院の施設に送ると決め、最初の例会で大きな模造小切手を掲げてみなで喜んで記念写真を撮っていました。SCDを自分たちのみの楽しみで終らせず、楽しみを可能にしているこの社会に感謝し、恵まれない社会へ思いをのばす必要を感じ、帰宅後、当地で今後のSCDプランに考慮するよう提案してみました。

SCDを楽しむ動機はさまざまでしょう。スコットランドに無縁のダンサーの方が、ダンスや音楽などの背景にも関心を抱いて、あの国を身近に感じれば、SCD自体がより楽しくなると思うので、次回にはそれを頭に話題をご提供しましょう■

最近のRSCDS本部のうごき

(レイチェル・ウィルトン、ロンドン支部)

新マガジン“The Scottish Country Dancer”は好評をもって世界に広く受け入れられ、同編集部は引き続き記事を収集中である。

各ダンスならびにテクニクに関する質問に対応するため、本部教育訓練委員会・会員サービス委員会から「テクニカル委員会」が設けられる。

Book 6, 15, 16 & 28のCDが新発売され、ジュニアのメダルテスト用ダンスCDも新発売となった。

ジョン・ウィルキンソンが次期スクール校長に任命され、現校長のリンダ・ゴールのもとで活動

中である。2006年末にはかれが校長になる。

ダンシング熟練度の評価後のアンケートで、どのレベルのクラスに入るべきかわからないという意見が多く、サマースクール委員会はダンサーの能力に応じたクラス選択が容易にできるよう、方法を考慮中である。

全会員はミス・ミュリアル・ギブソンの死去を悲しみをもって聞かれたと思う。かの女は1988年まで13年間本部セクレタリをつとめ、大ブランチから小さなアフィリエイト・グループにいたるまで、おどろくほどの知識を持っていた。その誠実・活力・能率・帰属意識・情熱・責任感は今全員の心にしっかりと焼きつけられている。Miss Gibson's Strathspeyを踊るたびにかの女が思い出されるだろう。

いまや1万をこえるダンスがあり、未経験ダンサーは気が滅入るほどのプログラムに直面している（訳者注—ポピュラーでないダンスが多い）。ことに地方になればなるほど、その傾向にある。本部会員の減少は、これが一因とも考えられる。会員サービス委員会は、ポピュラーな100—150ダンスからなる「コア・レパートリ集」の発行を計画中である。各ブランチはこれを中核にしてダンス・プログラムをつくってほしい、というわけである。これは一つの目安であって、その地方特有のダンス、難解なダンスを入れてはいけないというものではない。会員サービス委員会はこの件でコメントを求めており、「コア・レパートリ集」に入れるべきダンスについてもリクエストしてほしい。できれば msscconvenor@rscds.org へてに電子メールで送ってほしい。

ソサエティとしては公式な「ダンスの日」を設けないことに決定しているが、2006年4月29日はユネスコ・国際ダンス部会による「ダンスの日」である。各ブランチはこの日に行事を実施してもよい。くわしくは本部ウェブサイトを見てほしい。（“News from Headquarters” by Rachel Wilton, from The Reel No.254, Dec 2005 – Feb 2006, by the courtesy of the RSCDS London）■

ダイヤグラム入手の遅れ

— ブランチ・ショップからおわび —

昨年11月にダイヤグラムの注文をいただきました。同時にご注文の他の品物はすべてお送りしましたが、ダイヤグラムのみ未到着となっています。英国販売元の電子メール故障・Faxなしのため、手紙でやりとりしている状態で処理に時間を要しています。航空便のはずが英国郵政公社の手違いで船便になったものと思われます。

いましばらくお待ちいただきたく、お願いいたします■

韓国ティーチング・ツアー報告

韓国へ SCD 初上陸 五十嵐成子

昨今テレビでは韓国ドラマの放映で韓流が身近に感じます。

私達3名は8月11日成田空港よりインチョン空港へ向いました。北海道へ飛ぶくらいの時間。しかし言葉はまったくわからず出迎える人も見つけられずウロウロ、前途多難。

今回の訪韓の目的は、スコティッシュカントリーダンスを第8回IFDAK (International Folk Dance Association of Korea) キャンプで指導してほしいと、主催者のパーク教授からの依頼でした。彼女はソウルの体育大学で教えており、新体操の国際審判員の資格を持ち、来日経験もある方です。8月12日昼過ぎに現地へ到着してはじめて予定表が手渡されましたが、まったくわからない意味不明の文字だらけで受講人数記載なし。割り当てられたのは2時間のクラス4回、合計8時間でした。スタッフとの打合せもなく、すぐにウェルカムダンス。流れに乗せられた私達は、8月12日午後1時から15日まで4日間のキャンプに突入させられました。参加者はスタッフを含め約40名。年齢は20代から60代。韓国でFDを指導している人、学校の先生。パーク教授の教え子や他の大学の卒業生でFDに関心のある人達で約1/4が男性でした。

日本人のスタッフは、アシスタント中田多鶴子、ピアニスト村上美枝子、指導五十嵐成子。指導依頼の内容は紺国ではSCDは踊られていないので、初歩からどのような踊りかを教えてほしいとのことでした。

指導はナニ語で？ もちろんダンス用語。日本のクラスと同様に指導。英語が通じなく、パーク教授が韓国語に訳し、指導が中断し予定どおり進まず困惑。すべてデモンストレーションに切り替えたところ理解も加速度的にアップしました。マニュアルに沿った指導で、簡単なフォーメーションのダンスが踊れるようになりました。全員の集中力はすばらしく、リズムのはっきりわかる村上のピアノがそしてタイミングのよい中田のサポートにより、いつそう確実なダンスへと発展して行きました。

8月14日夜のパーティでは Miss Gibson's Strathspey をデモンストレーションするほど上達し、参加者の大きな拍手をいただきました。しかしその裏には、8人の熱心な練習があり、われわれ3人は感激で目頭が熱くなりました。

15日正午で楽しかったキャンプも終了。しかし私達は1泊余計に宿泊し、あらためて約10名のスタッフの人達にSCDを特訓して、ビデオに収録したい旨告げられました。夕食をはさんで夜10



時まで熱心に踊り続け、各自部屋へ戻ったときは深夜になっていました。参加者達はとても友好的で年配の方から日本語で話されることもありました。

初上陸のSCDが韓国で根付き楽しんで踊られるようになるのは、多くの時間が必要と思います。FDキャンプのプログラムにSCDを取り入れてくださったパーク教授に感謝し、私を彼女に紹介してくれた元日本FD連盟FD委員の村田雅典夫妻に心から感謝を述べます。

韓国SCD指導に同行して 中田多鶴子

8月11日韓国インチョン空港で、私達を迎えてくださったのは Park In Sook さん。ソウルの Sang Myung 大学の教授で、新体操の韓国ナショナルチームで指導されている方。アメリカのストックトンで毎年行なわれるFDキャンプにもよく参加され韓国の古典舞踊の名手でもある。翌朝数台の車に便乗し3時間かけてキャンプ地へ移動。「冬のソナタ」のロケ地、ナミソン村近くのリゾート地 (Kanguodo)。香港から男性の指導者 (ジョーシユア) が参加。4泊5日のキャンプスケジュールは、インターナショナルダンスのクラス、SCDのクラスそしてスクエアダンスのクラスが組み込まれていた。SCDは、初体験の人ばかり、成子さんは、持ち前の迫力ある指導に参加者はみごとに引き込まれていきました。

パークさんのダンスに対する情熱と惜しみないダンス界への貢献、明るい性格、厳しい中に愛のこもった指導など、彼女の人間性が大きく影響したすばらしいキャンプでした。

日本語と韓国語の共通点と相違点のおもしろい発見があり、毎日笑いのある和やかな時を過ごすことができた。三方に窓があるホールで、しかもピアノによる指導で、初めてSCDを踊る光景はすばらしかった。しかも夜、外からながめると、闇の中にホールが浮き上がって見え「まさにドリーム！」とパークさんは満足げだった。

私はアシスタントとして貴重な経験をし、SCDを通じてまた新しい人々と知り合うことができ、思い出に残る夏となった。

ピアニストとして同行 村上美枝子

初めての韓国は雨季だというのに降られることなく暑い6日間でした。

初めてスコティッシュのステップを踏む人ばかりでしたが、私は指導者がなにを伝えようとしているか常に要求に応えられるよう、またダンサーにわかりやすい音楽を提供するように心がけて弾きました。ダンサーがステップをうまく踏めないとき自己嫌悪・・・弾き方や曲を替え、いろいろな工夫は楽しかった。

ダンス用語も英語も通じない中で指導者は踊って見せて、躍らせて、再び踊って見せて何回も何回も。短いスカートで筋肉もりもりの足をよく見せて五十嵐パワーは続きました。日本ではみられない厳しさでした。ご自分のすべてを出したクラス内容と。ピアノの音に負けないほどのデカイ声でダンサーに要求。繰り返し踊るたびにきれいなステップに仕上がってゆくのがわかり、短時間にレベルアップしてゆくを見ながら弾くピアノは、それはとても幸せなことでした。

食事の話一本当のこといってつらい毎日でした。甘党の私は辛いものは一番苦手。毎回の食事にはハンカチ、ちり紙を持って“いざ挑戦”の思いでテーブルにつきました。料理は野菜中心で5-6種類それぞれの器に入っていました。見るからに辛そうな赤色ばかり。白菜、大根、きゅうり、にんじん、ねぎなどのキムチが勢ぞろい。豆腐入りの味噌汁にはニンマリしたけれどその辛さは直接のどにきてつらかったし、魚とじゃがいもの煮物も赤かったのです。「たいした辛さではないでしょう」と言われるけれど私にとってはぜんぶ真っ赤っかの大辛なものでした。水を飲み飲み忙しい食事でしたが回数を重ねてくると要領もわかり辛さにも慣れてきました。というよりそれしかないのですから辛くても食べるのみ。

韓国でまったく初めてのSCDクラスでピアノを弾けた私は、すべてに心から感謝でした■

ジェイムズ・シニア追悼

(St Andrews in Focus 誌 04 年 7/8 月号の記事に基づく)

ミスタ・シニアはクパーCupar 近くのピトレシーPitlessie に生まれた。そのころ、もう80年も前だが、村にあるラジオはたった1台きりだった。母のミセス・シニアはジョン・マコーマックの歌に熱をいれ、月曜日になるとジェイムズ少年を連れ、サンディ・クラーク靴店にラジオを聴きにいった。だがジェイムズ少年は歌にはまったく興味

World Day of Dance 2006

共催: 東京都フォークダンス連盟
4月29日(土・祝) 午後
港区スポーツセンター
(JR 田町駅海岸側出口1分)

RSCDS 本部ならびにユネスコ国際ダンス部会の呼びかけに基づき、ことしもさまざまなダンスを楽しめます。

(くわしくは後日ご案内します)

がなく、それよりも店にある靴の製作工具や器械に関心をもった。生涯にわたる靴への愛着がこうして始まった。

14歳になったジェイムズはフェチニー靴工房に弟子入りし、6年を勤めた。最初の週給額は10シリング、勤め上げるころには28シリング6ペンス(いまのお金に直すと1.42ポンド)になった。

徒弟期間の苦労を終え、ミスタ・シニアはパースのノーウェルズ靴店に3ポンド+歩合給で主任として迎え入れられた。ミス・ミリガンを通じ、ここでスコティッシュ・カントリー・ダンシングとの関わりが生まれたのである。ミス・ミリガンは「おたがい、助けあえるわよ」といった。かの女の要求とはダンシング「パンプス」を作ることであった。なぜ「パンプス(ひもや留め金がなく甲のあいている靴)」というのか? ミスタ・シニアはこういつていた「すべて手作り、機械を使いません」。

1944年、かれはセント・アンドルーズ店勤めになった。戦後SCDが流行し、かれは1960年にマーケット・ストリートに借家で店を出すまでにした。借家はまもなく自家に変わり、ダンス靴と同じように優れた品質の各種注文靴を売るようになった。

ダンスへの貢献をたたえ、2002年、RSCDSはその最高の榮譽である功労賞をミスタ・シニアに贈った。そしてまた、ストラスペイ“James Senior of St. Andrews”はかれのために作られたものである。“Mr James Senior of St. Andrews”という歌もある。

2001年ミスタ・シニアは引退を決意し、グレンロシズの工場とともに商権を売却した。だがかれの娘がサウス・ストリートで店を続けている。

ミスタ・シニアの靴をはき、ハッピーに踊られている足が世界中にある。ありがとう、ミスタ・ジェイムズ・シニア! (“James Senior”, from The Reel No.254, Dec 2005 – Feb 2006, by the courtesy of the RSCDS London) ■

ダイヤグラム誤記訂正

第8版に誤記ありつぎのように訂正を、とダイヤグラム編集委員会からの情報です。お手持ちの第8版、ご訂正を。

FIFTY YEARS ON Bk 43

Bars 31-32:- 1st man with 4th woman and 1st woman with 4th woman turn halfway with both hands

KNOTWORK Bk 44

Bars 5-8:- 1st and 3rd woman set and half turn R hand

LOCHALSH REEL Skye

Bars 17-24:- 3rd couple are on their own sides for the reels on the side

ROYAL DEESIDE RAILWAY Bk 40

Bars 13-16:- 1st couple cast on their own side of the dance instead of the opposite side as shown

ROYAL YACHT BRITANNIA Bk 43

Bars 5-8:- 1st man casts off one place and dance up one place

SINGING SANDS Priddey

At the end of bar 2, the 2nd woman is above the 2nd man on men's side of the dance

TOLL HOUSE Drewry

Bars 29-32:- 2nd couple and 3rd couple change place giving R hands, without setting, and then petronella in tandem■

本部理事会議事録から

10月8日および11月26日の本部理事会議事録および年次総会議案中、東京ブランチ会員の関心を引きそうな案件を述べます。

*北ヨークシャーの故チャールズ・オグデンからソサエティに5.5万ポンド(1,100万円)の遺産寄贈あり。

*Book 45でこの形式のダンスブック発行は中止。今後はマガジンで数ダンスを載せる。楽譜付の説明書も売る。録音音楽をどうするか決まっていない。ただしこの方式が最終決定ではない。

*モスクワからブランチ設立申請書を受領。会員の位置づけの明確化を要請。

*本部スタッフのスザン・デュランド退職。スザン・リースクを採用し、とりあえず試験業務をやってもらっている。

*いくつかの海外支部は理事会とほとんどコミュニケーションがない。理事会メンバーごとに担当支部を決め、電子メールで連絡を強化する。

*AGM自由討議で要請された「AGMボールでもリカップを」に対し、金曜夜はリカップつきと

するが、土曜夜はいままでどおりリカップなしとする。

*自由討議の議題を事前に求めたが、反応あったのは1支部のみ。マガジンで全会員に議題を募集する。

*録音のCD化計画はつぎのとおり。サマースクール時2種類、ウィンター時1種類発売の予定。

2006 — Book 14, 27, 35

2007 — Book 7, 13, 34

2008 — Book 8, 11, 20

2009 — Book 9, 17, 30

*Formation Index 新版ほぼ完成、ウィンタースクール時に売る。ポケット判Book 42-45もそうしたい。

*AGMのミュージシャン勉強会の見解、つまり「サマースクールのギャラは安すぎるといふバンドリーダーの意見について討論したところ、サマースクールの講師・音楽家の謝礼は見直されるべき」が提出された。教育訓練委員会と総務財政委員会で討論してもらう■

新刊紹介

(Tom Toriyama)

「図説*スコットランド」 佐藤猛郎・他著

今まで多くのスコットランド紹介本があるが、これはエジンバラ、グラスゴーの紹介から始まり、やる、観る、聴く、食べるスコットランド、歴史、観光案内まで、各方面をまじめに網羅している。読んで旅行すればより大きな感慨が得られるだろう。飛行機内で読んでもよいが、小活字のため座席灯では目が疲れる。都市地図はないに等しいので、本をたよりに町を歩くのは困難。すてきな写真がたくさん載っている。良質な紹介本である。(河出書房新社・ふくろうの本 ¥1,890)■

グループ行事案内

葛飾スコティッシュカントリーダンスクラブ

20周年パーティー(クレメント篤子講習会)

3月26日(日)10-4 ¥3,000

葛飾区総合スポーツセンター

申込み 郵便振替 00130-0-41921 尾身信晴

尾身信晴 03-8697-5838

TS スコティッシュ・カントリー・ダンサーズ

Annual Dance 2006

4月16日(日)1-4.30 ¥1,000

武蔵野市 SWING HALL 北2F [武蔵境駅1分]

トム鳥山 044-988-7773

次号は5月発行予定。6月-9月のお知らせ乞う